

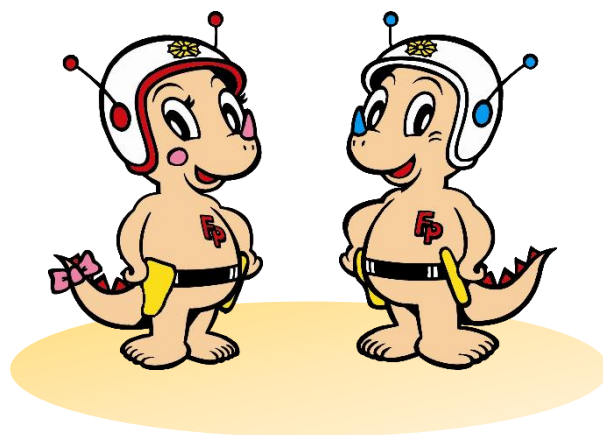
福井県の治安情勢 [10月末現在]

(令和5年10月末数値は暫定のものを含む。)



令和5年11月20日

伍代夏子特別防犯支援官による特殊詐欺被害防止広報



— 福井県警察 —

1 刑法犯

(1) 刑法犯の認知・検挙状況

認知件数は2,412件で、前年同期に比べて339件(16.4%)増加

検挙件数は1,334件で、前年同期に比べて7件(0.5%)減少

検挙率は55.3%で、前年同期に比べて9.4ポイント下降

		R2	R3	R4	R5.10末
福井	認知件数(件)	2,764	2,714	2,664	2,412(+339)
	検挙件数(件)	1,960	2,119	1,799	1,334(-7)
	検挙人員(人)	1,263	1,100	1,051	958(+105)
	検挙率(%)	70.9	78.1	67.5	55.3(-9.4p)
全国	認知件数(件)	614,231	568,104	601,331	584,684(+92,861)
	検挙件数(件)	279,185	264,485	250,350	216,060(+13,859)
	検挙人員(人)	182,582	175,041	169,409	147,014(+10,603)
	検挙率(%)	45.5	46.6	41.6	37.0(-4.1p)

※1 表中の()内の数字は、前年同期比(以下同じ。)

※2 検挙率とは、当該年の認知件数に対する検挙件数(当該年の前年以前の認知事件の検挙を含む。)の割合

(2) 重要犯罪の認知・検挙件数

認知件数は46件で、前年同期に比べて22件(91.7%)増加

検挙件数は36件で、前年同期に比べて14件(63.6%)増加

【認知件数】

(単位:件)

	R2	R3	R4	R5.10末
殺人	1	3	5	5(±0)
強盗	3	1	1	2(+2)
放火	1	2	2	3(+2)
不同意性交等	8	13	7	9(+3)
略取・誘拐	1	3	2	0(-2)
不同意わいせつ	22	22	11	27(+17)
合計	36	44	28	46(+22)

【検挙件数】

(単位:件)

	R2	R3	R4	R5.10末
殺人	1	4	5	4(-1)
強盗	3	1	1	1(+1)
放火	1	2	2	2(+1)
不同意性交等	8	13	7	8(+3)
略取・誘拐	1	3	2	0(-1)
不同意わいせつ	22	22	12	21(+11)
合計	36	45	29	36(+14)

(3) 防止重点8罪種の認知件数

認知件数は1,373件で、前年同期に比べて177件（14.8%）増加

（単位：件）

	R2	R3	R4	R5.10末
車上ねらい	189	123	160	64(-60)
自転車盗	307	293	310	495(+240)
万引き	543	443	562	396(-68)
置引き	143	114	142	126(+14)
器物損壊	238	220	156	174(+31)
空き巣	60	53	43	47(+14)
忍込み	46	252	20	19(+5)
住居侵入	72	51	61	52(+1)
合計	1,598	1,549	1,454	1,373(+177)

ア 主な施策

- 「ふくいクリーンアップ&安全・安心プロジェクト」に協賛する企業・団体との福井駅前における自転車鍵かけ広報
- 万引き被害防止に向けて量販店と連携してポスターを作成・掲示
- 住宅関連会社のイベント会場における住宅防犯相談窓口の設置及び機器の紹介
- 地域の防犯力向上を図るための防犯隊幹部研修会の開催



万引き被害防止に向けた量販店と共同作成したポスター



官民連携した「ふくいクリーンアップ&安全・安心プロジェクト」の推進

2 子どもを犯罪から守る対策

(1) 子どもに対する声掛け事案等

ア 相談等件数

相談等件数は143件で、前年同期に比べ8件（5.9%）増加

（単位：件）

	R2	R3	R4	R5. 10 末
小学生以下	91	100	55	50(-2)
中学生	56	55	41	38(+4)
高校生	64	60	56	50(+2)
その他	8	3	1	5(+4)
合計	219	218	153	143(+8)

※ 声掛け事案等とは、性犯罪等の前兆とみられる声掛け、つきまとい等をいう。

イ 先制・予防的活動

検挙、指導・警告件数は81件で、前年同期に比べて10件（14.1%）増加

（単位：件）

	R2	R3	R4	R5. 10 末
検挙	27	22	16	21(+7)
指導・警告	69	83	69	60(+3)
合計	96	105	85	81(+10)

ウ 主な施策

- リュウピーネットや安全・安心マップにより、地域住民等に対し声掛け事案等の不審者情報等をタイムリーに発信
- 通学路等における警戒・パトロールや、防犯ボランティア等と連携した見守り活動を強化するなど被害防止活動を推進
- 声掛け事案等の行為者を早期に特定し、検挙、指導・警告等の先制・予防的活動を推進
- 保育園等での防犯教室や不審者対応訓練を実施し、子どもの危険回避能力を向上



防犯ボランティア団体との
下校時の見守り活動



保育園における被害防止教育

(2) 児童虐待事案の認知対応状況

ア 認知対応件数等

認知対応件数は453件で、前年同期に比べて19件(4.4%)増加
 児童通告人員は386人で、前年同期に比べて75人(16.3%)減少
 検挙件数は18件で、前年同期に比べて7件(63.6%)増加

		R2	R3	R4	R5.10末
認知対応件数(件)		555	547	521	453(+19)
児童通告	人員数(人)	678	608	539	386(-75)
	身体的	73	60	59	50(-2)
	性的	4	4	0	2(+2)
	初々外	31	26	16	30(+17)
	心理的	570	518	464	304(-92)
	うち面前DV	436	346	333	217(-74)
検挙件数(件)		59	33	17	18(+7)

イ 主な施策

- 児童相談所との24時間体制による情報共有と確実な児童通告の実施
- 児童虐待事案における連携を強化するため、児童相談所との合同訓練及び連絡会を実施
- 児童の車内放置防止に向けた取組
 - ・パチンコ店等と連携した、大型駐車場を有する施設に対する広報啓発活動の実施
 - ・広報啓発用動画の作成・公開、関係団体等と連携した広報啓発活動の実施



児童相談所との合同訓練



児童虐待防止チラシの作成

3 非行少年を生まない社会づくり

(1) 非行少年の推移

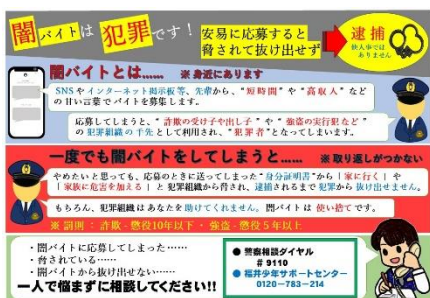
検挙・補導した非行少年は177人で、前年同期に比べて96人(118.5%)増加

(単位：人)

	R2	R3	R4	R5.10末
犯罪少年	101	74	82	140(+76)
触法少年	35	24	19	36(+19)
く犯少年	2	0	0	1(+1)
非行少年総数	138	98	101	177(+96)

(2) 主な施策

- 犯罪実行者募集情報(いわゆる「闇バイト」)の危険性についての情報発信や、チラシ・動画による広報啓発の実施
- 園児等に対する防犯教室、小・中・高校生に対する非行防止教室の開催
- 少年らの活動が活発化したことに伴い、県や少年警察ボランティア等の関係機関・団体と連携した街頭補導活動を強化



犯罪実行者募集情報の注意喚起チラシ



中学生に対する非行防止教室

4 女性を犯罪から守る対策

(1) 女性が被害者となる犯罪の認知・検挙件数

認知件数は162件で、前年同期に比べて21件(14.9%)増加

検挙件数は149件で、前年同期に比べて11件(8.0%)増加

(単位：件)

	R2		R3		R4		R5.10末	
	認知	検挙	認知	検挙	認知	検挙	認知	検挙
不同意性交等	7	7	13	13	7	7	9(+3)	8(+3)
不同意わいせつ	18	18	22	22	11	12	27(+17)	21(+11)
略取誘拐・人身売買	1	1	2	2	1	1	0(-1)	0(-1)
暴行	155	155	117	118	117	116	89(-16)	85(-20)
傷害	60	54	34	37	24	24	37(+18)	35(+18)
合計	241	235	188	192	160	160	162(+21)	149(+11)

(2) ストーカー事案の相談等・検挙状況

相談等件数は78件で、前年同期に比べて31件(28.4%)減少

検挙件数は21件で、前年同期に比べて2件(10.5%)増加 (単位:件)

	R2	R3	R4	R5.10末
相談等	157	130	122	78(-31)
検挙	41	37	20	21(+2)
禁止命令・警告	64	64	42	26(-9)

(3) DV事案の相談等・検挙状況

相談等件数は171件で、前年同期に比べて増減なし

検挙件数は89件で、前年同期に比べて17件(23.6%)増加 (単位:件)

	R2	R3	R4	R5.10末
相談等	269	236	190	171(±0)
検挙	142	99	80	89(+17)
保護命令	14	9	3	5(+3)
警告	101	109	85	78(+5)

(4) 主な施策

- ストーカー・DV事案に係る被害者の迅速な安全確保と行為者に対する指導・警告、検挙措置の徹底
- 企業等における女性の防犯、相談受理等を担う「レディースガードリーダー」を対象に、毎月1回、女性・子どもを巡る犯罪情勢、時節に応じた防犯指導等について情報を発信
- JR福井駅において性暴力の手口や相談窓口についての広報啓発活動を実施
- 精神科医やカウンセラーと連携し、ストーカー行為者に対して、治療に関する助言を行うなど、行為者の更生を支援 (R5.10末:17件実施)



レディースガードリーダーに対する防犯指導

5 高齢者を犯罪から守る対策（特殊詐欺対策）

(1) 特殊詐欺の認知件数及び被害額（※ 被害額の千円未満は四捨五入）

- ・ 特殊詐欺の認知件数は26件で、前年同期に比べて9件（52.9%）増加
- ・ 被害金額は約5,904万8千円で、前年同期に比べて約3,535万8千円（149.3%）増加

【被害の特徴】

- ① 被害者は、65歳以上の高齢者の割合が多い（26件中18件、69.2%）
- ② 手口別では、架空料金請求詐欺が多い（26件中12件、46.2%）
- ③ 交付形態別では、「振込型」10件、「現金手交型」7件、「キャッシュカード手交型」5件、「電子マネー型」2件、「キャッシュカード窃取型」1件、「送付型」1件

	R2		R3		R4		R5.10末	
	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)
オレオレ	0	0	0	0	3	7,000	7(+4)	19,080(+12,080)
預貯金	7	8,201	5	6,076	8	5,315	5(+3)	14,892(+14,492)
架空料金請求	7	33,100	6	59,398	10	12,558	12(+5)	23,486(+11,987)
融資保証金	1	350	0	0	0	0	0(±0)	0(±0)
還付金	0	0	12	8,999	3	2,291	1(-2)	499(-1,792)
金融商品	0	0	0	0	0	0	0(±0)	0(±0)
ギャンブル	0	0	0	0	0	0	0(±0)	0(±0)
交際あっせん	1	10,560	0	0	0	0	0(±0)	0(±0)
その他	0	0	0	0	0	0	0(±0)	0(±0)
キャッシュカード詐欺盗	3	3,544	4	3,420	2	2,500	1(-1)	1,091(-1,409)
合計	19	55,755	27	77,893	26	29,664	26(+9)	59,048(+35,358)

※ 預貯金詐欺とは、親族や警察官、銀行協会職員等を装い、口座が犯罪に利用されているなどと騙って、交換手続き名目でキャッシュカード、クレジットカード、預貯金通帳等をだまし取るもの。従来、オレオレ詐欺として計上していたもののうち、キャッシュカード、クレジットカード、預貯金通帳等をだまし取るものについては、令和2年1月から預貯金詐欺の分類で計上

※ キャッシュカード詐欺盗とは、オレオレ詐欺等の手口で被害者に接触し、被害者の隙を見てキャッシュカード等を窃取する窃盗をいう。

(2) 検挙状況（助長犯罪*を含む。）

検挙人員は36人で、前年同期に比べて13人（56.5%）増加

	R2	R3	R4	R5. 10 末
検挙件数（件）	39	40	57	55(+15)
検挙人員（人）	31	31	33	36(+13)

※ 助長犯罪とは、売却目的で携帯電話や預貯金口座を不正に取得するなど、特殊詐欺を助長する犯罪をいう。

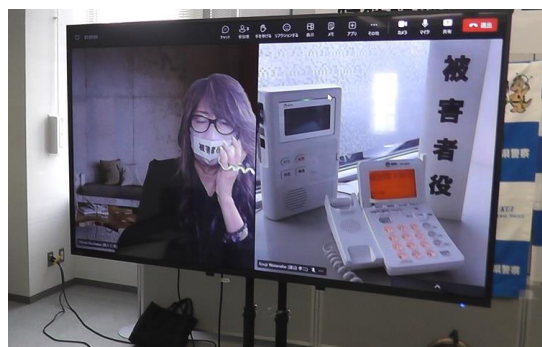
(3) 主な施策

特殊詐欺撲滅対策プロジェクトチームによる被害防止と検挙を両輪とした対策を推進
ア 被害防止対策

- 伍代夏子警察庁特別防犯支援官による特殊詐欺被害防止広報啓発（11月20日来福）
- 特殊詐欺被害防止コールセンターの開設
- 通信事業者と協同して広報チラシを作成し、固定電話による被害を防止するためのハード対策（通信事業者が行うサービスの利用等）を促進
- NTT西日本と連携したAI活用型「特殊詐欺対策サービス」等説明会の開催
- 予兆電話認知時等におけるリュウピーネットやツイッター、Yahoo!防災速報等による県民へのタイムリーな情報発信
- オートコールシステムによる金融機関、タクシー事業者に対する速やかな情報配信
- 制服警察官による高齢者宅への巡回連絡や出前講座等の直接指導
- 金融機関や企業等との連携による官民一体となった被害防止対策



特殊詐欺被害防止
コールセンターの開設



NTT西日本と連携したAI活用型「特殊詐欺
対策サービス」等の実演・説明会の開催

イ 検挙対策

- 県内に流入する受取役被疑者の徹底検挙
- 他の都道府県警察との連携による犯行グループの壊滅に向けた取締り
- 携帯電話や預貯金口座の不正取得など、特殊詐欺を助長する犯罪の取締りと犯行ツールの無力化対策の推進

6 暴力団等組織犯罪対策

(1) 暴力団対策

ア 検挙状況

検挙人員は44人で、前年同期に比べて11人(33.3%)増加 (単位:人)

	R2	R3	R4	R5. 10 末
刑法犯	46	31	26	32(+20)
特別法犯	26	19	27	12(-9)
合計	72	50	53	44(+11)

イ 山口組分裂に伴う諸対策

- 「六代目山口組・神戸山口組対立抗争集中取締本部」を継続し、暴力団犯罪の取締りと暴力団関係箇所の警戒活動を徹底(H29.4~)

ウ 暴力団排除活動の取組

- 県内の事業活動等における暴力団等からの不当な要求行為等を防止するための支援の実施など、暴力団等の資金源を封圧するための諸対策を推進
- 県暴力追放センターをはじめとする関係機関との連携を一層強化し、より効果的な暴力団排除活動を戦略的に推進



暴力追放県民大会



中日本高速道路株式会社金沢支社
不当要求防止対策協議会福井県連絡会

(2) 薬物犯罪対策

ア 検挙状況

検挙人員は68人で、前年同期に比べて7人(11.5%)増加 (単位:人)

	R2	R3	R4	R5. 10 末
覚醒剤	40	29	43	42(+8)
大麻	22	29	27	22(+1)
その他	1	11	7	4(-2)
合計	63	69	77	68(+7)

イ 取締り

- ベトナム人グループによる大麻取締法違反（栽培）事件（R5.9～）
- 覚醒剤取締法違反（所持）事件（R5.10～）



押収した大麻草、照明器具など



押収した覚醒剤、注射器など

ウ 主な施策

若年層による薬物犯罪の防止に向け、サイバーパトロールによる違法・有害情報の排除、小・中・高校や大学生、企業に対する薬物乱用防止講座、SNSやポスター等を活用した広報啓発活動等を推進



公共交通機関における広報啓発



企業における薬物乱用防止講座

7 来日外国人犯罪の対策

(1) 検挙状況

検挙件数は75件で、前年同期に比べて4件（5.1%）減少

検挙人員は45人で、前年同期に比べて10人（18.2%）減少

	R2	R3	R4	R5.10末
検挙件数（件）	218	160	97	75（-4）
刑法犯	193	125	66	49（-2）
特別法犯	25	35	31	26（-2）
検挙人員（人）	67	86	63	45（-10）
刑法犯	50	59	36	28（-3）
特別法犯	17	27	27	17（-7）

(2) 主な施策

- 外国人留学生や技能実習生に対する防犯講習・法令指導の実施
- 外国人が経営するヤード（中古自動車、船舶の買取・輸出）に対する立入り調査の実施

8 サイバー犯罪対策

(1) サイバー犯罪関連の相談受案件数

相談件数は1,638件で、前年同期に比べて203件(11.0%)減少 (単位:件)

相談区分	R2	R3	R4	R5.10末
詐欺・悪質商法 (インターネット・オークション関係を除く。)	775	944	934	889(+104)
インターネット・オークション	35	52	22	10(-11)
違法・有害情報	26	98	58	44(-9)
名誉棄損・誹謗中傷	106	118	89	52(-28)
不正アクセス、コンピュータ・ウイルス	147	239	406	174(-182)
迷惑メール	195	122	242	241(+31)
その他	253	328	391	228(-108)
合計	1,537	1,901	2,142	1,638(-203)

(2) 検挙状況

検挙件数は60件で、前年同期に比べて5件(9.1%)増加 (単位:件)

	R2	R3	R4	R5.10末
不正アクセス禁止法違反	6	2	3	1(+1)
コンピュータ・電磁的記録対象犯罪	3	4	12	3(-8)
ネットワーク利用犯罪	65	52	52	56(+12)
詐欺	21	13	24	25(+4)
児童買春・児童ポルノ法違反	2	3	3	2(±0)
県青少年愛護条例違反	2	4	3	2(-1)
わいせつ物頒布等	1	4	0	0(±0)
その他	39	28	22	27(+9)
合計	74	58	67	60(+5)

※ コンピュータ・電磁的記録対象犯罪とは、刑法に規定されているコンピュータ又は電磁的記録を対象とした犯罪をいう。

(3) 主な施策

- サイバーセキュリティに関するフォーラムや体験型セミナーの開催
- 大学祭におけるサイバー防犯ボランティア(大学生中心に構成)と連携したサイバー犯罪の危険性を周知するための広報啓発活動



サイバーセキュリティフォーラムにおける
有識者の基調講演



大学祭における広報啓発活動

9 交通事故から県民を守る対策

(1) 交通事故の発生状況

ア 交通死亡事故の特徴等

- 高齢運転者が第1当事者となる事故が多い 15件中 8件 (53.3%)
- 死者のうち、高齢者が占める割合が高い 15人中 10人 (66.7%)
- 事故形態では単独事故が多い 15件中 9件 (60.0%)
- 自動車乗車中の死者はシートベルト非着用者が多い 9人中 8人 (88.9%)

【交通事故発生状況】

	R2	R3	R4	R5. 10 末
総事故件数(件)	18,804	19,811	20,366	17,471(+870)
人身事故件数(件)	868	912	939	782(+23)
死者数(人)	41	26	27	15(-10)
傷者数(人)	940	1,029	1,063	904(+56)
重傷者数(人)	161	176	191	148(-2)
物損事故件数(件)	17,936	18,899	19,427	16,689(+847)

※ 全国の交通事故死者数 (R5. 10 末) は2,124人で、前年同期に比べて46人増加

【年齢層別・当事者別死者数 (R5. 10 末)】

(単位: 人)

	自動車等				自転車	歩行者	その他	合計
	自動車	自動二輪車	原付	計				
29歳以下		1		1				1(±0)
30歳代								0(±0)
40歳代	1			1		1		2(-1)
50歳代	1			1				1(±0)
60~64歳		1		1				1(±0)
65歳以上	7	1		8		2		10(-9)
75歳未満	4	1		5		1		6(+1)
75歳以上	3			3		1		4(-10)
合計	9	3		12		3		15(-10)

イ 主な施策

- 違反者に対するメッセージカード交付など、交通安全意識の高揚に向けた取組の強化
- W機動隊（機動隊、交通機動隊）による広報啓発活動の実施
- シートベルト装着義務違反の指導取締り強化

(2) 高齢交通弱者対策

ア 高齢者（65歳以上）が犠牲となる交通死亡事故

高齢者の死者数は10人で、前年同期に比べて9人減少

高齢者の死者数は全死者数の約7割（66.7%）

	R2	R3	R4	R5. 10 末
全死者数（人）	41	26	27	15(-10)
高齢死者数（人）	31	16	20	10(-9)
構成率（%）	75.6	61.5	74.1	66.7(-9.3p)

イ 高齢交通弱者が犠牲となる交通死亡事故

高齢交通弱者（歩行者・自転車乗用中）の死者は2人で、前年同期に比べて10人減少

(単位:人)

	R2	R3	R4	R5. 10 末
高齢交通弱者の死者数	19	10	12	2(-10)
歩行中	14[14]	8[7]	9[8]	2[2](-7)
夜間歩行中	9[9]	7[6]	3[2]	1[1](-2)
自転車乗用中	5	2	3	0(-3)

※[]は反射材非着用

ウ 主な施策

- 高齢者交通安全リーダー等による高齢交通弱者に対する積極的な声掛け
- 各種警察活動を通じた反射材の着用等促進活動
- 高齢者を対象とした交通安全教室の開催



反射材の着用促進に向けた
広報啓発活動の推進



高齢者を対象とした
交通安全教室の開催

(3) 高齢運転者対策

ア 高齢運転者が第1当事者となる交通死亡事故*

全ての交通死亡事故のうち、高齢運転者が第1当事者となる交通死亡事故は8件で、前年同期に比べて2件(20.0%)減少

(単位: 件)

	R2	R3	R4	R5. 10 末
交通死亡事故件数	38	25	26	15(-9)
高齢運転者が第1当	14	10	11	8(-2)

※ 高齢者が運転免許を必要とする車両を運転して第1当事者となった交通死亡事故

イ 年齢層別・当事者別死亡事故件数(第1当事者)(R5. 10 末)

(単位: 件)

	自動車等				自転車	歩行者	その他	合計
	自動車	自動二輪車	原付	計				
29 歳以下	2	1		3				3(+1)
30 歳代	2			2				2(+2)
40 歳代								0(-3)
50 歳代	1			1				1(-4)
60~64 歳		1		1				1(±0)
65 歳以上	7	1		8				8(-5)
75 歳未満	4	1		5				5(-2)
75 歳以上	3			3				3(-3)
合計	12	3		15				15(-9)

ウ 主な施策

- 高齢者宅訪問による交通安全指導
- 公民館等における免許証自主返納出張窓口の開設
- 警察署における免許返納者サポート申請受付による返納者の利便性向上
- 運転技能自動評価システムを活用した交通安全指導



高齢者宅訪問による
交通安全指導



自主返納者運転卒業式

(4) 悪質・危険運転者対策

ア 危険運転者対策

(7) 飲酒運転による人身事故（運転免許を必要とする車両によるもの）

飲酒運転による人身事故は15件で、前年同期に比べて8件（114.3%）増加
 飲酒運転による死亡事故は0件で、前年同期と比べて1件（100.0%）減少

	R2	R3	R4	R5. 10 末
人身事故件数（件）	12	13	9	15(+8)
死亡事故件数（件）	3	3	1	0(-1)
構成率（%）	25.0	23.1	11.1	0(-11.1p)

(i) 飲酒運転の取締り

飲酒運転の検挙件数は140件で、前年同期に比べて43件（44.3%）増加

	R2	R3	R4	R5. 10 末
検挙件数（件）	156	155	119	140(+43)

(ii) 速度違反の取締り

速度違反の検挙件数は9,417件で、前年同期に比べて506件（5.1%）減少

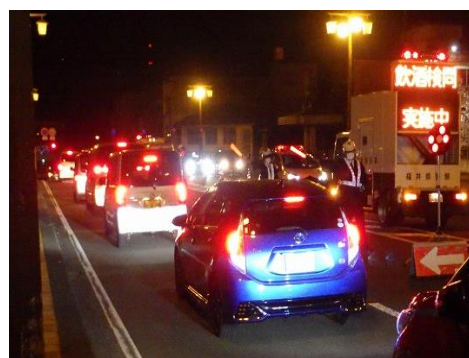
	R2	R3	R4	R5. 10 末
検挙件数（件）	11,843	12,502	10,741	9,417(-506)

(エ) 主な施策

- 飲酒運転情報提供窓口「飲酒運転ダメール」の開設
- 飲酒運転取締り検問の実施と広報啓発活動の推進
- 可搬式速度違反自動取締装置を活用した通学路における速度取締りの実施



飲酒運転情報提供窓口
 「飲酒運転ダメール」の開設



飲酒運転取締り検問の実施

イ いわゆる「あおり運転」対策

(7) あおり運転の対象となる違反の検挙

車間距離保持義務違反の検挙件数は22件で、前年同期に比べて5件（18.5%）減少

（単位：件）

	R2	R3	R4	R5.10末
車間距離保持義務違反	122	66	27	22(-5)

(i) 主な施策

空陸一体となったあおり運転対策の実施